学校だより
NO　7
R5　8/24

敬　愛（けいあい）

学校教育目標
一人一人の個性を伸ばし，自ら学ぶ生徒の育成を図る

甲斐市立敷島中学校
編集　校長　山本成利

２学期のスタート

残暑厳しく，まだまだ猛暑が続くなかですが、いよいよ今日から２学期がスタートします。夏休み前半には，私はたくさんの感動的な場面を共有させてもらいました。県吹奏楽コンクールでの吹奏楽部の圧巻の演奏，県総体では，最後まであきらめずに頑張り，逆転で関東大会出場を決めた男子バスケの試合，女子バスケの圧倒的な強さでの優勝，落雷・豪雨での中断の後，薄暮のなかトラックを激走する上田海成くんの姿・・・，多くの団体や個人が関東大会へ進んでいました。私は，すべての競技に応援に行くことができなかったですが，みなさんはたくさんの感動と共に大きな素晴らしい成果をあげてくれました。心が動く体験が，みなさん一人一人を成長させ，学校を成長させてくれます。２学期は大きな行事があり，来月半ばには年輪祭も予定されています。また合唱祭や新人大会，２年生の職場体験などは貴重な学びの場となり，成長できるチャンスになります。時にはうまくいかないこともあるでしょう。しかし，いろんなことを乗り越えた先には感動があることでしょう。格別の暑さの夏を乗り越え，この２学期を「実りの秋」「成長の秋」にしていきましょう。

「今こそ出発点」
人生とは毎日が訓練である
　わたくし自身の訓練の場である
　　失敗もできる訓練の場である
　　生きているのを喜ぶ訓練の場である

今この幸せを喜ぶこともなく
　いつどこで幸せになれるか
　　この喜びをもとに全力で進めよう

わたくし自身の将来は　今この瞬間にある
　今ここで頑張らずにいつ頑張る

この言葉は，京都大徳寺大仙院（だいとくじだいせんいん）閑栖（かんせい）の尾関宗園（おぜきそうえん）さんのものです。私が，以前修学旅行で大仙院を訪れた際，尾関さんとお話しする中で，紹介された言葉です。今日から，新学期スタート「今こそ出発点」の気持ちで生活していけるといいですね。「今」「ここ」ですべきこと，できることに全力集中して，この一瞬を精一杯に生きる！その一瞬一瞬の積み重ねが一日となれば，それは今までにない，素晴らしい一日となるはずです。一日一日を大切に，しっかり生活していきましょう。

＜代表の生徒から＞

☆２学期には年輪祭があります。努力が試されることがたくさんあります。学年や自分自身の課題である努力を大切にして，取組期間頑張りたいと思います。集団としては学年のよさを活かし，クラスで戦いながらも団結して認め合える学年でありたいです。また，小さな優しさをもち続け，互いを気づかえるようになりたいです。（１年３組　丸山明莉さん）

☆２学期には２つのことに頑張りたいです。一つ目は定期テストです。ワークをやるだけで終わることがないよう努力をしていきたいです。二つ目は，年輪祭です。クラスや縦割り系列で団結して一位になれるよう頑張ります。年輪祭のスローガン「翼」のように，全校の笑顔と思い出が空に羽ばたいていくような楽しい最高の年輪祭にしたいです。（２年２組　田中月乃さん）

☆私が２学期に頑張りたいことは第一に勉強です。それは，十月，十一月に進路を決める上で大切な教達検があるからです。私たち３年生は，以前から学習に対する取り組み方が課題でした。受験は「チーム戦」とよく

言われます。学年全体で受験生という意識を高め，受験に向けた学習の雰囲気をつくっていきたいと思います。（3年4組小尾凛佳さん）

☆生徒会最大行事の年輪祭が行われます。生徒会本部で掲げた３本の柱，そのどれが欠けても年輪祭を成功させることはできません。日常生活を大切にし，縦や横のつながりを深め，更に伝統を発展させるために全員で頑張りましょう。一人一人の想いという羽が集まり，翼となって敷中生が大きく羽ばたけるようになると信じています。全校生徒が一丸となって取り組めるよう企画をしていきたいと思います。（3年2組　照屋依智加さん）

原爆投下，そして終戦から 78 年・・・

さて，過日私たちは令和５度目の「８・15」を迎えました。戦争体験者は高齢化が進み，若者の意識も低くなる傾向は否めませんが，世界では現在でも戦争が続いています。戦争の悲劇を二度と繰り返さないために，戦争の記憶を風化させないために，時代が変わっても，歴史を振り返り，平和の大切さを考える機会としたいと思っています。被爆 78 年となる広島「原爆の日」の平和記念式典で，広島市の小学生が「平和への誓い」を読み上げました。ここに紹介します。

平和への誓い　　広島・原爆の日

みなさんにとって「平和」とは何ですか。
争いや戦争がないこと。
差別をせず、違いを認め合うこと。
悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。
身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和２０年（１９４５年）８月６日午前８時１５分。
耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。
皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。
子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて」と、叫び続ける母親。
たった一発の爆弾により、一瞬にして広島の町は破壊され、悲しみで埋め尽くされました。
「なぜ、自分は生き残ったのか」
仲間を失った私の曽祖父は、そう言って自分を責めました。
原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。
あれから７８年がたちました。
今の広島は緑豊かで笑顔あふれる町となりました。

「生き残ってくれてありがとう」
命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。
私たちにもできることがあります。
自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。
友達の良いところを見つけること。
みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。
今、平和への思いを一つにするときです。
被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。
身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。
誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

令和5年（２０２３年）８月６日

子ども代表　広島市立牛田小学校６年　　勝岡英玲奈
広島市立五日市東小学校６年　米広朋留